

第191回 全経簿記検定試験 上級 一工業簿記一

模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1 [丸数字は予想配点、合計 50 点]

問 1

	等級製品 P	等級製品 Q	計
直接材料費	㊦ 4,050 kg	4,080 kg	8,130 kg
加工費	3,935 kg	㊦ 2,970 kg	6,905 kg

問 2

等級製品 P の正常減損費 [㊦ 12,400] 円

等級製品 Q の正常減損費 [㊦ 19,600] 円

問 3

等級製品 P 完成品原価 [1,227,780] 円 月末仕掛品原価 [41,265] 円

等級製品 Q 完成品原価 [1,061,640] 円 月末仕掛品原価 [110,760] 円

各㊦点 × 4 か所 = 12 点

問 4

等級製品 Q 当月製造費用 直接材料費 [785,600] 円 加工費 [350,880] 円

各㊦点 × 2 か所 = 8 点

問 5

	借 方	金 額	貸 方	金 額
㊦	異常減損費	13,155	仕 掛 品	13,155

問 6

減損は、質的にも量的にも正常な範囲内で生じたものを正常減損とし、その正常な範囲を

超えて生じたものを異常減損とする。正常減損費は、自動的に良品に負担させる度外視法

により良品に負担させるか、正常減損費を分離把握し、関係品に合理的に負担させる非度

外視法によって処理する。また、異常減損費は、非原価項目として処理する。⑩

問題2 [丸数字は予想配点、合計50点]

問1

標準配賦率 [㉓ 120] 円/時 製品Xの原価標準 [㉓ 5,280] 円/個

問2

パーシャルプランの場合

仕掛直接材料費

前月繰越	[㉑ 144,000]	製 品	[㉑ 4,800,000]
材 料	[㉒ 4,938,000]	次月繰越	[㉑ 240,000]
原価差異	[]	原価差異	[42,000]
	[5,082,000]		[5,082,000]

仕掛直接労務費

前月繰越	[㉑ 72,000]	製 品	[4,800,000]
賃 金	[㉒ 4,928,200]	次月繰越	[㉑ 144,000]
原価差異	[]	原価差異	[56,200]
	[5,000,200]		[5,000,200]

仕掛製造間接費

前月繰越	[㉑ 14,400]	製 品	[㉑ 960,000]
製造間接費	[㉒ 1,100,000]	次月繰越	[㉑ 28,800]
原価差異	[]	原価差異	[125,600]
	[1,114,400]		[1,114,400]

シングルプランの場合

仕掛直接材料費

前月繰越	[144,000]	製 品	[4,800,000]
材 料	[㉒ 4,896,000]	次月繰越	[240,000]
原価差異	[]	原価差異	[]
	[5,040,000]		[5,040,000]

仕掛直接労務費

前月繰越	[72,000]	製 品	[4,800,000]
賃 金	[㉒ 4,872,000]	次月繰越	[144,000]
原価差異	[]	原価差異	[]
	[4,944,000]		[4,944,000]

仕掛製造間接費

前月繰越	[14,400]	製 品	[960,000]
製造間接費	[㉒ 974,400]	次月繰越	[28,800]
原価差異	[]	原価差異	[]
	[988,800]		[988,800]

問 3

直接材料費総差異	① 42,000	有利・不利			
価格差異	② 18,000	有利・不利	数量差異	② 24,000	有利・不利
直接労務費総差異	① 56,200	有利・不利			
賃率差異	② 8,200	有利・不利	時間差異	② 48,000	有利・不利
製造間接費総差異	① 125,600	有利・不利			
予算差異	② 26,000	有利・不利	固定費能率差異	② 4,000	有利・不利
変動費能率差異	② 5,600	有利・不利	不動能力差異	② 90,000	有利・不利

数字にはプラス・マイナスを付けず、有利な差異か不利な差異かに○をすること。

問 4

標準原価計算の目的は、原価管理目的、財務諸表作成目的、予算管理目的、計算・記帳の簡略化、迅速化目的の4つである。⑤
